

環境と経済の関わり

2006. 6

●現状の経済

- ・豊かな者はより豊かに、貧しい者はより貧しくなる
- ・先進国は原料を安く買い、製品を高く売ることによってより豊かになり、途上国は安く売り高く買うことでより貧しくなる
- ・富める人と貧しい人の貧富の差はこの40年で30倍から100倍に拡大した
- ・現状の経済は決してみんなが豊かになることはない

資源	採掘可能年数
石油	あと 40年
ガス	あと 60年
石炭	あと190年

●資源の枯渇

- ・経済レベルと資源消費は比例する
- ・経済成長は資源消費を加速させる
- ・経済成長のゴールは資源枯渇
- ・経済が最大に達したとき資源はゼロになる
- ・過去の文明はすべて資源枯渇と環境破壊で崩壊した
- ・経済の方向転換をしない限り破局は避けられない

食糧（穀物）自給率	
アメリカ	119%
E U	109%
中国	100%
ロシア	99%
インド	97%
ブラジル	91%
北朝鮮	78%
日本	28%

国連FAO「フードバランスシート2006」

●環境の破壊

- ・環境破壊の根本原因は現状の経済
- ・オゾン層破壊、地球温暖化、森林破壊など、このままでは破局が避けられない
- ・環境破壊の結果は経済の崩壊、生存基盤の崩壊
- ・方向転換をしない限り、環境破壊は止められない

●人口増加と絶対的食糧不足

- ・現状の経済は人口増加を引き起こす
- ・経済拡大は工業化、都市化によって食糧不足が避けられない

●世界経済の崩壊

- ・先進国の経済成長は途上国債務の犠牲の上に成立
- ・先進国の貯金は途上国の借金（サラ金と借金地獄にはまったサラリーマンと同じ）
- ・途上国の借金（累積債務）は返済不能、破産は避けられない
- ・途上国の破産は、即、先進国の破産
- ・現状の世界経済は必ず破産する

エネルギー自給率	
ロシア	173%
デンマーク	137%
中国	98%
ブラジル	89%
インド	82%
アメリカ	75%
E U	37%
日本	4%

OECDエネルギーバランス2005ほか

このままでは資源枯渇と環境破壊、世界経済の崩壊は避けられない
食糧、資源、エネルギーなどあらゆる点で、日本が最も危険